

考える楽しさ



東邦ガス東部支社長

天高 孝 氏

平成二十二年十二月発表の経済協力開発機構(OECD)の第四回国際学習到達度調査(PISA)で、日本の高校一年生の成績が一部回復したとの報道がありました。しかし、回復した「科学的応用力」や「数学的応用力」でも十年前に達していたトップレベルにはまだ戻っておりませんでした。

経済成長著しい国・地域の参加が増えたことも要因に挙げられていますが、興味をもって、「なぜ」、「どうして」という考えるプロセスを大事にする教育環境が減少していることが、大きな要素を占めているのではないかと思っています。受験のシステムも含め結果を重視することに慣れ、インターネットの普及による膨大な情報量の中から効率よく結果を引き出す社会システムに慣れてしまふと、情報を活用し、経験し、考えて結果を創り上げる能力が低下してきてしまっているのではないでしょ

うか。

さて、知人で、荒川静香・高橋大輔や岡崎朋美選手に加え男子バレーボール日本代表の栄養指導をしているオリリンピック強化委員の石川三知先生が、講演で「食事のメニューのバランスさえよければ、『好きなように食べる』がもっとも効果的に身体の吸収力を高め、栄養素の相互作用による理想的な身体づくりに寄与できる」という話をされたとき、聴講されていた栄養学の教授が、摂取カロリーに偏重して、「楽しく食べる」という身体の吸収プロセスを高める点を見落としていたと感慨深げにされていたのを覚えております。

学業もスポーツも結果を求め続けて努力していくことは同じであり、そのプロセスに「なぜ」、「どうして」という探究心、好奇心が働くことで、知識・経験を駆使した「知恵」が働くものと思われまふ。

いつも自分自身では「未知への扉

を開いていこうと呼びかけています。「未知への扉」とは、誰もやったことへ挑戦する第一歩を表していません。興味をもって、考え経験すること、今の教育環境を楽しく、効果的に活用することは、誰でもできるのではないのでしょうか。

(てんこう たかし)



教育随想



平成23年5月1日

5月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
東邦ガス東部支社長 天高 孝氏	
この人に聞く	2
ビジネスコンサルタント 山崎 将志氏	
羅針盤	2
保健指導員 鈴木かをる	
ふれあい	3
宮崎小 鈴木 巨裕	
特集	4
我が校自慢の運動会 -小学校編	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
労作教育(昭和6、7年ごろ)	
この本を	8

この人に聞く



人たちがうごかうことの価値

ビジネスコンサルタント

山崎 将志 氏

「残念な人」シリーズの本は、ベストセラーとなったビジネス書である。著者の山崎さんは六ツ美中学校出身。本の執筆だけでなく、東京でビジネスコンサルタントとして、複数の事業にかかわっている。これらの仕事をどう進めるのか尋ねると、

「毎日普通に寝て、遊びもします。あえて言えば、無駄なことはしません。仕事をしている時間の中で、ぼーっとしている時間はないですね。隙間の時間の使い方を考えます。」

と、軽やかな口調で、答えが返ってきた。「残念な人」にならないためのヒントのようだ。



「人がまだやっていないことに価値がある。商売をやっていると過去に興味がなくなるんです。それよりも、これからどうしようか、三か月後にはどうなるだろうかということに心が向きます。だから、小中学校のことはあまり思い出せませんね。」

しかし、はつきりと覚えていて、今の自分の生き方に大きな影響を与えたのが、中学三年のときのニューポートビーチへの親善訪問の体験だったそうだ。型にはまった自分たちと比べ、明るい笑顔で自由に生活しているアメリカの中学生に出会い、世界の広さを感じたという。

「子供たちには三つのタイプがあると思います。一つ目は、自分で考えてやっていける子。二つ目は、導かれればやっていける子。三つ目は、意欲がもてない子です。学校の先生は、三つ目のタイプの子にたくさん時間と手間をかけますよね。そして、二つ目のタイプの子を中心に指導方法を考え、一つ目の子にも同じことをさせようとする。でも、一つ目のタイプの子は、よい

きっかけさえ与えられれば、後は自分で進んでいくのです。ニューポートビーチに行かせてもらったことは僕にとつて、まさに新しい世界に向かうきっかけでした。」

ビジネス社会に身を置く山崎さんが教育と結んで言われたことがある。「常に人より半歩先を行かなければ成功はできない。何かを生み出し、突出した面のある人間を育てるには、自分の力でやっていける子供たちによいきっかけを与え、あとは、それぞれの個性を生かして見守る教育が必要ではないでしょうか。」

背筋が伸びる思いがした。最後にこう付け加えた。

「でもね、仕事をやっていくと、ぐるっと回って学校の基本に戻るんですよ。ビジネスの世界では、運としか言いようがないことがある。その運をつかむ方法を考えていくうちに、あいさつをするとか人の悪口を言わないというような、学校で学んだことに戻るんです。いろいろなタイプの人間に出会える場でもある学校は、僕は大切なところだと思います。」

岡崎の子供たちの飛躍のきっかけを作り、支えとなる学校でありたい。

氏名 やまざき まさし
生年月日 昭和四十六年五月二十七日
住所 東京都在住



子供を捉える

保健指導員 鈴木かをる

「今日は、水泳の授業で暑かったから、特別に用意しました。じゃあ、乾杯。」

A先生の声を合図に、六年生の子供たちはジュースを飲んだ。次の瞬間、教室中がざわめく。

「まずい。」

「わざと炭酸を振ったんじゃない。」

笑顔のA先生が、「どう、おいしい」と聞くと、「いつも、こんなに甘かったかなあ」と子供たちがつぶやいた。

A先生は、それを聞き逃さず、すぐどうしてそう思うのか問い返した。

「冷えてないからです。」

「炭酸が抜けているから甘い気がするけど、いつもと同じだと思えます。」

子供たちは、意見を出し合うなかで、甘さを数字で表そうと考えはじめた。このとき、授業は一気に動き出した。



宮崎をどげんかせんといかん

宮崎小 鈴木 巨裕

宮崎学区は、過疎化、少子化、高齢化が進んでいる地域である。そんな地域だからこそ、子供たちが地域に愛着と誇りをもつてほしいと願い、平成二十一年に、五・六年複式学級十四名で「宮崎をどげんかせんといかん」のテーマで総合学習を始めた。

まず、宮崎のイメージを尋ねた。子供たちからは、マイナスイメージが多く出された。A男は、「都会的な雰囲気がない。何か暗い」と発言した。しかし、「自然が豊か」というプラスの考えも出され、自然を活用して宮崎を盛り上げられないかと子供たちに投げかけた。

そのなかから出てきたのが、「くらがり溪谷の五平餅」であった。A男は、「五平餅なんて作っても、誰も来ないよ。」と言った。何とかしてA男も引き入

れ、十四名全員に宮崎への愛情を少しでも深めさせたいと思った。

「五平餅はみんな好きだからいいと思うよ」という意見に対し、「今でも五平餅はあるんだから、意味がない」と繰り返すA男。他の子供たちも、A男の考えを受け入れ始めた。そこで宮小オリジナルの五平餅が考えられなしかと子供たちを促した。すると、A男が、「秋だから、もみじの形にしてみたらいいかも」とユニークな提案をした。A男は、見通しをもったとき、動き出すと確信していたのだ。クラスのみんなが、宮小オリジナル五平餅作りへ心が傾いた瞬間だった。そして、学区の農家で栽培が盛んな柚子を入れるアイディアもみんなが考え、『もみじ形柚子味噌五平餅』が完成した。

手始めに、地域のお年寄りの方に試食してもらった。「もみじの形がかわいいねえ」「それ、ぼくが考えたんです」A男の得意そうに話す姿が見られた。いつのまにか、A男はこの活動の中心になっていった。

いよいよ十一月。「宮崎をどげんかせんといかん」のイベントを学区のくらがり溪谷で行った。

「ぼくたちが考えて作った、もみじ形柚子味噌五平餅、一本二百円。」「地元で採れた、おいしい無農薬の柚子を使っています。」

子供たち十四名全員の元気な声が響き渡った。

「形が秋らしくて、柚子の香りもちようどよくて、おいしいよ。」

お客さんにかけていただく声に、子供たちの声も、ますます元気になっていった。そして、用意した三百本の五平餅は、あっという間に完売した。A男は、活動を振り返った作文の中で、「ぼくたちでも、宮崎を明るくすることができると。一緒にやっただ五年生の子たちは、絶対に来年も続けてほしい」と書いた。

この活動を展開したA男たちは卒業した。しかし、先輩の意志を引き継ぎ、活動は現在も継続している。「みんな、がんばるとるねえ」「五平餅おいしかったで、またやってよ」

たくさんうれしい言葉をいただき、子供たちも、宮崎学区に対する愛着や誇り、そして自分たちの力に対する自信を深めている。



A先生の導入は、短くて無駄がない。楽しくて、不思議で、解決したい気持ちで授業を貫いていた。A先生は、子供が主役になるように授業を仕組んでいた。

グループに分かれ糖度計で測定したジュースの糖度を、換算式に当てはめて糖分として求めた。そして、求めた糖分量を身近にあるスティックシュガーの本数に置き換えた。A先生は、具体物への変換が、次の活動への意欲につながることを予想していた。子供たちは他のグループと糖度を比べ合いながら、糖度の低いジュースを買おうと考えたり、飲む量を減らそうと決めたりして、個々の目標を設定していった。子供たちが、意欲をもって最後まで授業に取り組めたのは、A先生の日頃の子供理解の深さであった。

平成二十一年一月十七日に出された中央教育審議会答申では、学級担任等に、子供の現代的な健康課題に対応すべく、子供と向き合う時間の確保を呼び掛けている。朝の健康観察から生活すべてにおいて、子供をいかにとらえているかは、授業にも表れる。教師として、「子供を捉える」ことは難しいが、授業を進めるうえでの基本である。



▲「家康の自立」(大樹寺小)

かつて、小学校の運動会は、「春の運動会」「秋の大運動会」などと、年二回の開催が多かった。しかし、授業日数の減少による、カリキュラムの見直しが行われ、年一回の開催が今では主流となっている。


年に一度の運動会を学区と合同で開催する地区もあり、プログラムも地域との結びつきの強いものになった。その結果、種目は、学校・地区の特色を生かしたものが残ったり、新しいものが考案されたりした。新しく生み出されたものなかも、毎年受け継がれ、伝統となりつつあるものもある。

また、学校が誇りをもっている演目については、どんなに時代が変わろうと脈々と受け継がれている。その例として大樹寺小では、組立体操と家康の生涯の野外劇を組み合わせた演技が受け継がれている。


大規模校では、人数の多さを生かした迫力のある組立体操や帽子取り、騎馬戦などが行われている。一方、小規模校では、全校児童が一丸となって組立体操に取り組んだり、縦割りによる活動を取り入れたりしている。それぞれの学校の特色を生かした演技を工夫して行うことにより、児童は大きな成長を果たす。

さらに、美合小の「ほたる音頭」豊富小の「ぬかた音頭」など、その地域オリジナルの演技を多くの学校が取り入れている。地元住民により作られ、学区総出で参加する運動会は、自然と観客席の応援も盛り上がる。PTAや地域の方の主催によるバザーが開かれる学校もあり、これも昼休みの楽しみの一つとなっている。


小学校運動会は、地域との結びつきを強め、子供たちの郷土愛を育み、学校の特色を生かして、心身を鍛える場となっている。



▲「常南の力」(常磐南小)
和太鼓の演奏と表現運動・器械運動を組み合わせている。



▲「ボール体操」(岩津小)
30年以上続く歴史がある。



▲「中部限定 竹馬一輪車でダッシュ」(六中小) 竹馬・一輪車によるリレー競走が行われる。

つながる伝統

わたしたち三人姉妹で演技をしていると、「福寿会」のおじいちゃんやおばあちゃんたちが、「あれは三人とも、Aさんとこの孫なんだよ」と言っていたので、少し照れましたが、にこっとしてしまいました。これからは常南小のみんなが、この演技を続けてくれるとうれしいです。(6年女子 常磐南小)

学校の特徴を生かして



▲「組立体操」(井田小)
6年生174人で9段ピラミッドを作る。



▲「組立体操」(夏山小)
1年生から6年生までの全校児童で取り組む。



▲「一輪車ドリル」(下山小)
放課等の遊びの中で技術を自然に高める。その技を生かし、3～6年生が息の合った演技を見せる。



▲「応援合戦」(常磐小)
年間を通して全校縦割りで4チームに分かれる。この応援合戦は、1年はじめの活動である。



▲「ムカデ競走」(連尺小)
学年別保護者対抗で競われる。

「先生方が異動されても、新しい先生が協力してくれて続けることができました。一緒に踊ること、子供さんからエネルギーをいただいています。とても感謝しています。」
(三十年間「ほたる音頭」を教えている学区の方)

学区とともに



▲「ほたる音頭」(美合小)
学区民・卒業生も踊りの輪に加わる。



▲「羽根音頭」(羽根小)
平成18年に、学区民の願いをこめて、作詞作曲・創作された。

『羽根音頭』
作詞作曲 磯村泉
みんな集まり 手をつなぎ
声をそろえて歌おうよ
伸びゆく町の夢のせて
羽根はよい町ソレソレ
心ひとつに 高らかに
交わすことばがこだまする
豊かな心 羽根の町
羽根はよい町よいところ
※一部抜粋



▲「PTAバザー」(六西小)
多彩なメニューで、昼休みには長い行列ができる。



● ESDの推進

平成二十三年度は、ESD、「持続発展教育」を推進する。ESDの目的は、「持続可能な社会の担い手を育む」とである。そのために、岡崎市では、平成二十二年度より、これまでの確かな岡崎の教育を基盤に、岡崎の教育の三本柱を立てた。「環境教育」「英語活動」「岡崎の心」の醸成は、ESDの重要な柱である。今年度の重点は次の三点である。

- 1 「持続可能な社会の担い手を育む」という視点で、学校運営、カリキュラムや教育内容をとらえ直していくこと
- 2 自然のなかでの活動、職場体験など、様々な体験活動を促すこと

3 ESDの核となる岡崎の教育の三本柱「英語教育」「環境教育」「岡崎の心」の醸成の実践をさらに充実させること

三点をふまえ、各学校の実践・研究、現職研修委員会の活動を充実させていきたい。

● 教科書採択

○教科書改訂予定

小学校では、昨年度教科書の採択替えが行われ、平成二十三年度四月より、新しい教科書が使用開始された。中学校では、今年度採択替えが行われ、来年度より新しい教科書を使用開始する。次のように中学校の教科書は採択が進む予定である。

- ・ 中学校教科書
- 採択……平成二十三年度
- 使用開始……平成二十四年度

○教科書展示会の開催

教科書展示会が県内二十一家所の教科書センターで開催される。

県教育委員会では、教科書採択の調査研究に役立てるとともに、県民の教科書に対する理解や関心を深めるために、教科書展示会を開催する。なお、障がいのある児童生徒のための教科書や一般図書については愛知県総合教育センターで展示する。

岡崎地区の教科書センターは、岡崎市中央図書館に設置されている。展示会も中央図書館で行われる。展示会場には投書箱が用意されており、教科書に対する意見や要望を投書できる。今年度は、中学校教科書の採択替えにあたり、広く意見を聞く場ともなる。

- ・ 展示会場（岡崎教科書センター）
- 岡崎市中央図書館
- 岡崎市康生通西四一七十一
- ☎二三一三一一一
- ・ 展示期日
- 平成二十三年八月十一日（土）
- ～七月五日（火）

※休館日を除く

- ・ 展示教科書
- 検定済みの教科書
- 本年度使用の教科書
- 小学校は今年度より新しい教科書を使用している。
- 中学校は、平成二十二年で使用していた教科書と同じものが使用される。教科書は通常四年に一度採択替えが行われているが、新学習指導要領の関係で、今年度使用する中学校の教科書は、平成十八年度に使用が始まったものである。通常より長い使用となる。

● 表彰

◆第28回石田杯争奪中学校招待女子バスケットボール大会

三位 葵中学校

◆第42回愛知県真春期少年剣道大会

中学生男子の部 三位 矢作北中学校

◆愛知県体育協会表彰

女子陸上 矢作北中三年 杉山美貴

◆自己の体験並びに社会奉仕の実践活動発表（全国）

作文 最優秀賞 竜海中二年 古川 黎

◆第54回JA共催全国小・中学生書道コンクール

条幅の部 佳作 竜海中三年 川澄紘子

◆第54回全国学芸科学コンクール 読書感想文部門

旺文社赤尾好夫記念賞 竜海中二年 長嶋遙奈 努力賞 竜海中一年 今井咲帆

◆KWNキッドウットまニユース（全国）

脚本賞 井田小学校六年五組

◆第十六回NHKハート展（全国）

入選 福岡小四年 塩野入夢幻 フルート独奏 優秀賞 岩津中二年 中野優香

◆第23回管弦楽個人・重奏コンテスト愛知県大会

ホルン独奏 優秀賞 岩津中二年 荻野沙織

クラリネット独奏

優秀賞 竜海中二年 貴志絵美

サクソフォン独奏

優秀賞

竜海中二年 渡邊稜子

クラリネット八重奏

優秀賞

金管八重奏

優秀賞

※学年はすべて受賞時

●平成二十三年度校長会役員

＜小中学校長会役員＞

会長 山本 悟(六ッ美北中)
副会長 安藤 真好(上地小)

酒井 久男(城北中)
小倉 敏幸(六ッ美西小)

会計監査 山本 浩二(岡崎小)
山田 賛平(額田中)

庶務 小林 義孝(三島小)
高橋 鏡二(竜南中)
庶務補佐 二瓶 千秋(梅園小)

会計補佐 野田 光宏(竜海中)
三浦 倫夫(常磐東小)

評議員 坂井 節(東海中)
鈴木 純子(連尺小)
石川 守彦(美川中)
岡本 孝幸(北野小)
権田 隆志(新香山小)
柴田 秀夫(井田小)

＜小学校長会役員＞

会長 安藤 真好(上地小)
副会長 小倉 敏幸(六ッ美小)

酒井 久男(城北中)
小倉 敏幸(六ッ美西小)

会計監査 山田 賛平(額田中)
山田 禮子(矢作東小)

庶務 酒井 久男(城北中)
副会長 山田 賛平(額田中)

会計補佐 坂井 節(東海中)
石川 守彦(美川中)

法制 近藤 博之(矢作中)
教育条件 伊藤 直也(常磐中)

学校経営 稲吉 治(岩津中)
進路 内田 義和(葵中)

稲吉 治(岩津中)

酒井 芳宏(山中小)

内田 義和(葵中)

佐宗 正義(細川小)

伊藤 直也(常磐中)

高比良泰太(六ッ美小)

田中 忠康(豊富小)

夏目 恒男(矢作北小)

山田 禮子(矢作東小)

保体 稲垣 幸一(北中)

福安 市川 松男(秦梨小)

給食 石川 守彦(美川中)

生徒指導 高橋 淳(甲山中)

特別支援 澤田 祥明(六ッ美北小)

広報 石川 昌幸(常磐小)

●平成二十三年度特別委員会

特別委員会を見直し、平成二十三年度は以下の十二委員会を置き、岡崎市の教育活動の充実・発展を図る。

・市民大学運営委員会
・月報「岡崎の教育」編集委員会

・教員の研修に関する委員会
・学校環境緑化推進委員会

・情報教育推進委員会
・郷土読本編集委員会

・授業改善委員会
・英語が話せるおかさきっ子研究委員会

・学校評価委員会
・環境教育研究委員会

・外国人児童生徒教育推進委員会
・教員免許更新特別委員会

・その他の関係委員会等
・岡崎市就学指導委員会
・岡崎市特別支援教育連携協

議会

・岡崎市いじめ・不登校対策協議会

●平成二十三年度研究発表校

今年度の研究発表校は、市委嘱が三校、自主が二校となっている。

○南中学校 市委嘱

六月八日(水)

自律をめざす生徒を支援する魅力ある学校づくり
―「きょうどう」によるチーム・ザ・南中の実現―

○矢作東小学校 自主
十月四日(火)

国語力向上をめざす授業の創造
―書く力をつけることを中心にして―

○竜海中学校 自主
十月十二日(水)

自ら学び、表出する生徒の育成
―教科指導を中心に―

○連尺小学校 市委嘱
十月十九日(水)

確かさ・豊かさ・楽しさを究める連尺の国語科学習
―「読みの力」を支える言

語活動の充実―

○本宿小学校 市委嘱

十一月二日(水)

生きる力を育む小学校英語の創造
―英語が話せる本宿っ子をめざして―

●平成二十三年度学校訪問

◆岡崎市教育委員学校訪問

・三島小学校 五月十二日
・竜南中学校 五月十九日
・北野小学校 六月十六日

・矢作幼稚園 六月三十日
・梅園小学校 九月十五日
・生平小学校 九月二十九日

・北中学校 十月十三日
・六ッ美西部小学校 十月二十七日
・河合中学校 十一月十日

◆指導員合同訪問
・岡崎小学校 一月十九日
・秦梨小学校 一月二十六日

◆県教育委員会訪問
・大樹寺小学校 六月二十三日
・矢作東小学校 六月二十三日
・恵田小学校 十一月十七日

・新香山中学校 十一月十七日
・矢作南小学校 十月二十日

※その他に主事訪問を予定

・カ
ツ
ト
甲
山
中
杉
山
有
紀

労作教育 (昭和6、7年ごろ)

写真提供：福岡小学校

この写真は、校舎の南側の労作園で野菜作りを行っている様子と、ウサギの世話をしている様子である。

当時福岡小学校は、労作教育に取り組んでおり、昭和六年から十年まで五回にわたって労作教育研究発表会が開かれた。学校の周りの広大な田園には学校農園があり、野菜や米を作っていた。温室もあり、当時では珍しいメロンやトマトを栽培していた。

尋常科一年から高等科二年まで八学年のクラスがあり、尋常科はウサギを飼い、高等科はヤギ・ブタを飼っていた。また、高等科の子供は、できた野菜を町に売りに行き、飼育している動物のえさ代などにあてたようである。

現在の勤労体験学習とはやや異なり、当時の社会情勢を反映して、手工的労作を中心とする実習が重視されていたようだ。

フォトヒストリー 岡崎の教育



「おもしろいことは、まだ人がしていないこと」山崎さんの話は歯切れよく、速いテンポで進んでいく。普段かかわりの少ない商売の世界の話は難しい。それなのに、いつの間にか引き込まれてしまうのは、的確でありながら意外性のある例え話の効果が大きいと、途中で気づいた。話し方には人の生き方が出る。話がおもしろい教師になりたいと思う。

心臓が高鳴る瞬間がある。くす玉をめぐけて突進してくる上級生を待ち構えると、スタートラインに立ち、ゴールの向こうで待つ先生を見つめるとき、自らの両腕で友の体を支えるとき。この緊張感を乗り越えた、日に焼けた子供たちの顔が目の前に並んでいる。そこには最高の笑顔があった。

シ オ ス ア

愛鳥週間がもうすぐ始まる。ツバメ、スズメくらの見分けはついても、多くは「鳥」として一くくりになっている私がいる。だから、子供にいろいろ聞かれても名前すら教えられない。せめて「あれはハクセキレイと言って、岡崎市の鳥だよ」と説明できるくらいの知識がなくては。幅の広い教師になりたいと、五月の青空を悠々と飛ぶツバメを見て、考えた。

水筒が教室にだんだんと増えてきた。夕方の部活を考えてか、大きなものが目立つ。間もなく行われる総体にむけて、今日の練習もたいへんだらう。厳しい練習の途中、つかの間の休憩。水筒のお茶で喉を潤しながら、仲間との語らいに笑顔がこぼれる。水筒がくれた和みの時間はあつという間。軽くなった水筒とともに帰る生徒に、頑張ったなと声をかける。

この本を

- *日本はなぜ世界でいちばん人気があるのか 竹田 恒泰 ￥720
PHP 研究所
- *老いの才覚 曾野 綾子 ￥800
KKベストセラーズ
- *猫の一年 金井美恵子 ￥1,800
文芸春秋
- *自然死への道 米沢 慧 ￥1,260
朝日新書

*無縁社会
NHK無縁社会プロジェクト取材班 文芸春秋 ￥1,400
今、無縁社会が広がりつつある。無縁死と呼ばれる死者は年間32,000人にのぼることが明らかになった。一人きりで人生の最後を迎える不安が広がっている。
本書は、無縁死した人々や一人きりで生きる人々の人生を取材した記録である。日本の社会は、20年後には単身世帯が全世帯の4割近くに達する時代を迎える。人とのつながりや家族の絆を真剣に考える時期がきている。

矢作西小 柴田 輝夫